

第 29 回新田次郎文学賞受賞作

働哭止まぬ時代小説の極致！

公には頼れぬ。百姓たちの大戦。敵は、眼前の大河
天が村の傍らに与えた恵みとなるはずの筑後川。だがその水は、一滴も村には流れてはこ
なかつたー

黙して泣き続けるよりも、身命を賭し、戦って散った方が、いい。川面に響いた五庄屋の
悲痛な叫びが、一人の老武士の心を動かした。

江戸時代の九州、民の夢をのせた工事实現まで、あとわずか。しかしー

絶望に抗う人間たちの猛く尊き姿をみよ！

上巻の帯より転載

著者 30 年目の最高到達点！

涙は流るれど、水は涸れゆく。これは罰か、それとも試練か。

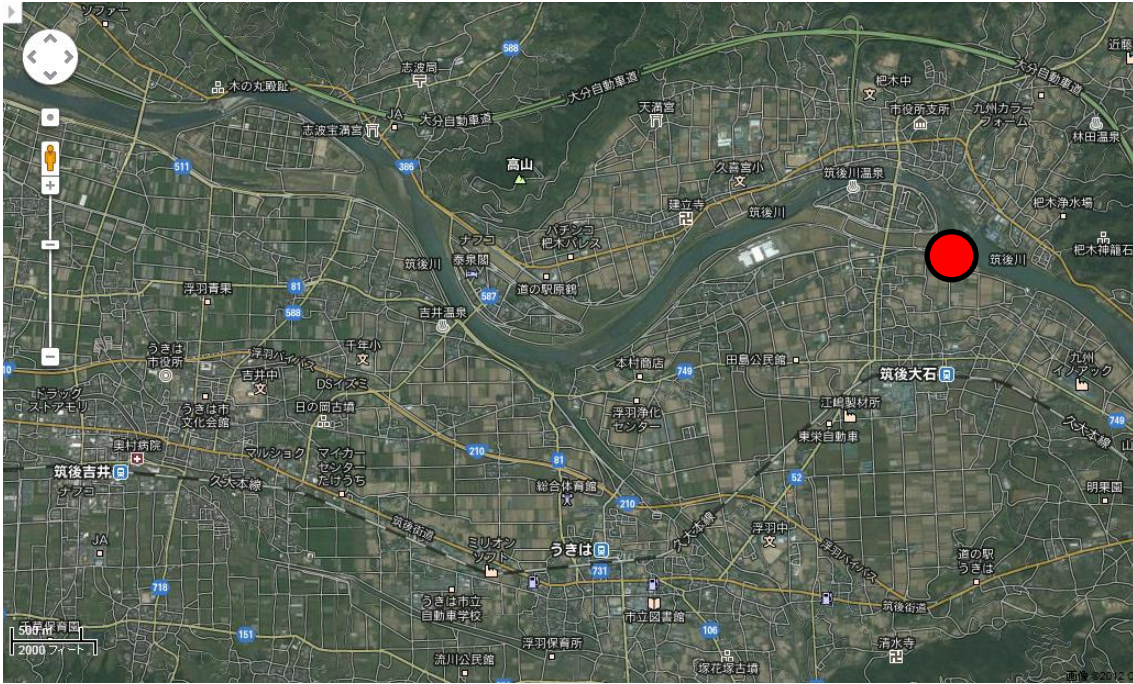
反乱と無常な抵抗。全てを飲み込む大河との合戦に終止符を打つためには、神への供物が
必要なのかー

一大事業がはじまった。巨石をはこび、水門を築く百姓たち。大河の土手には、工事が失
敗したら見せしめに庄屋たちを吊るすための五本の礮柱がたてられたー

入魂の描き下ろし千枚、この感動、比するものなし！

下巻の帯より転載

小説の舞台となった用水路は大石用水で、筑後川に作られた取水堰は大石堰である。大石
堰は筑後川に作られた堰の中で最も上流に造られたもので、この堰から取水した水は大石
用水（総延長 km）を通じて周辺のたんぼに灌漑される。



Google Map より転載 2012/11/07



Google Map より転載 2012/11/07